

1 研究テーマ 少人数学級における効果的な学習指導の在り方
～児童の積極的な学びを促す発問の工夫～

2 はじめに

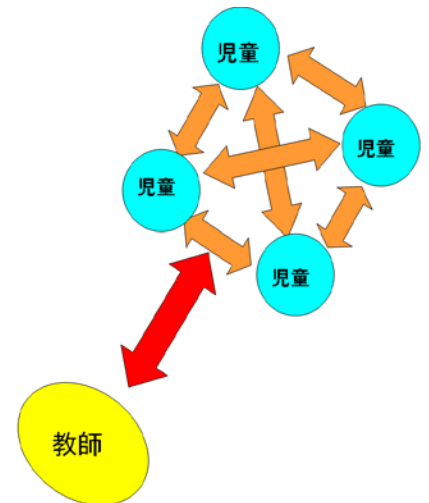
所属校は全校児童47名の小規模校で、少人数での学習形態となっている。少人数の学級では、一人一人に目が行き届き、個別の指導がしやすいことや児童一人一人の発言の機会が多いといった学習指導におけるプラスの面がある一方、指示待ち人間になりやすい、多様な考えが出ない、人間関係が固定化するため競争心が薄い、また、家族のような親密な関係となるためなれあいとなり、学習のルールが身につけにくいといったマイナス面がある。今までの私自身の指導を振り返ると、教師の発問に対して児童が答える一対一の対応となりがちで、個々の学びはあっても児童同士のつながりが無い状況だった。児童一人一人の思いを学級集団としての学びに生かしていくかわりが、不十分だったといえる。

そこで、めざす児童の姿「積極的な学びの姿」(一人一人の意欲が高まる、聞き合う、言葉で考えを伝え合う互いにつながり合う)となるための、効果的な教師の働きかけや、発問の工夫について研究していきたいと考えた。

(図) 積極的な学びの姿

3 研究目的

「積極的な学びの姿」(図参照)となるための効果的な教師の働きかけや発問はどのようなものかについて次のような仮説を立て、授業実践の中で検証を行う。



<研究仮説>

- I つながりを意識できるように学習環境を整える教師の働きかけが、児童の積極的な学びにつながる。
- II 児童自ら言葉で考えを伝え合いつながっていくための発問の工夫が、児童の積極的な学びにつながる。

4 研究内容

(1) 授業実践 I について

第2学年 国語科「だれが何をしたかを考えながら読もう」『ニャーゴ』(東京書籍二年上)の授業の中で、研究仮説 I について検証を行った。

① 発表のルールを身につけさせる

ア 友達が自分の発表を聞こうとしているかを確認してから発表させる

- 発表者が、「聞いてください。」と声をかけ、自分の発表を友達が聞こうとしているか確認していることをほめる。(例)「友達が聞こうとしているのを確かめてから発表できているね。」
- 聞く姿勢をほめる。(例)「発表する人の方を見てしっかり聞けたね。」「目と心で聞いているね。」

イ 友達の発表とつながりのある発表の仕方をさせる

- 例を示す。(例)「『〇〇さんと同じで～です。』『〇〇さんと～が似ていて、～です。』のように発表しよう。」
- できたところをほめる。(例)「友達の考えと比べて発表できたね。」

⇒ 発表のルールを身につけさせようという教師の働きかけにより、友達の発表を聞き、つながりのある発表をしようと少しずつ意識するようになってきた。

② 学習の足跡を残す

ア 学習したことがわかりやすいノート作り

- 毎時間見開き2ページの使用を定着させる。
- 自分の考えだけでなく友達から学んだことも残していく。

イ 振り返りの仕方

- 自分のことだけでなく友達とのかかわりや友達から学んだことも書くようにする。
- ⇒ 前時の学習内容をノートで確認しながら学習する姿が見られた。
- ⇒ 友達の学習の様子や友達と自分とのかかわりにも目を向けるようになってきた。

(2)授業実践Ⅱについて

第2学年 国語科「どうぶつのひみつをしらべよう」『ビーバーの大工事』(東京書籍二年下)の授業の中で、研究仮説Ⅱについて検証を行った。

① キーワードの設定

ア 今までの学習で共有した言葉

- 前時までの学習で共有したことのある言葉を手がかりにするため考えが出しやすい。
- ⇒ 一人の児童の意欲的な発表の後、他の児童も発表をつなげていくことができた。

イ 身近な話題や経験と結びつけて考えさせることができる言葉

- 身近な話題や経験は話しやすいため、意欲的に発表する。
- 共通の体験をしていることが多いので、お互いの意見を共有しやすい。
- ⇒ 意欲的に発表する姿やうなずきながら聞く姿が見られた。

② ゆさぶりをかける発問

- 根拠となる言葉や文に着目して考えを深める。
- 詳しく考えを言う。よりわかりやすく説明する。
- ⇒ 自分たち全員への問いかけとしてとらえ、協力して説明しようとする意欲的な姿が見られた。
- ⇒ 教科書の文や言葉だけでなく動作も取り入れて説明しようとする姿が見られた。
- ⇒ 教科書の根拠となる部分を示し、お互いに補い合いながら、次々に意見を言う姿が見られた。

5 研究のまとめ

- つながりを意識できるように学習環境を整える教師の働きかけによって、友達の話聞き、友達と考えを比べ、つながりのある発表をする姿が見られるようになった。
- キーワードをもとにした発問の工夫をしたり、ゆさぶりをかける発問を工夫したりすることにより、自分の経験や思ったことを伝え合おうとする姿や、協力して説明をしようとする姿が見られるようになった。

6 今後の課題

(1) つながり合う姿が定着するための手立て

今回の研究において見られるようになったつながり合う姿は、一度見られたからといって次からいつも見られたわけではない。理想とする姿が継続し、定着していくようにするための手立てを考え、実践していくことが大切である。

(2) 児童の積極的な学びのために、児童のつぶやきや発言を拾いつなげるタイミング

児童のつぶやきや発言を拾いつなげるタイミングを逃さないよう、さらに授業力を高めたい。

(3) ふさわしい学び方で積極的に学べる児童の育成

今回の研究では自ら考えを伝え合い、互いにつながり合う姿をめざしてきた。しかし、少人数学級であるからこそできる一対一の対応での個別指導が有効な場面もある。各場面に最もふさわしい学び方で積極的に学んでいける児童を育てられるよう取り組んでいきたい。

7 おわりに

今回の研究は日々の実践の中で取り組まれていることであるが、意識して取り組むことにより、児童が考えを伝え合い、互いにつながり積極的に学ぶ姿を見ることができ、手ごたえを感じた。今後も児童への働きかけや発問の工夫について研究を重ね、実践に生かしていきたい。